

2 本市の景観特性

(1) 特徴的な景観のテーマ

【特徴的な景観を表す4つのテーマ】

前節で整理した景観特性を捉える要素から見ると、大阪の景観は一般に良好な景観と評価される「整然としたまちなみ」「水や緑が豊かな景観」「歴史や文化を感じられるまちなみ」だけでなく、「繁華街等の限界的なにぎわい」をテーマとする景観も重要な要素となっていることが特徴です。

以上を踏まえると、大阪らしい景観は大都市を象徴する「風格があり、洗練された」景観、「水・緑」が豊かな景観、「歴史・文化」を受け継ぐ景観、多様な「にぎわい・活気」のある景観の4つのテーマから捉えることができ、こうした様々な表情がある景観こそが「大阪らしい景観」といえます。

① 風格・洗練

- ・大阪駅、難波駅等の大規模なターミナル周辺や、御堂筋、堺筋等の都心部の主要幹線道路沿道などは、多くの人々の目に触れる機会が多く、大都市の顔となる、風格があり洗練された景観が特徴となっています。

② 水・緑

- ・大川、土佐堀川等の河川、臨海部の水辺、中之島公園、靱公園等の大規模な公園、夕陽丘等の風致地区などは、水・緑豊かなうまいのある景観が特徴となっています。

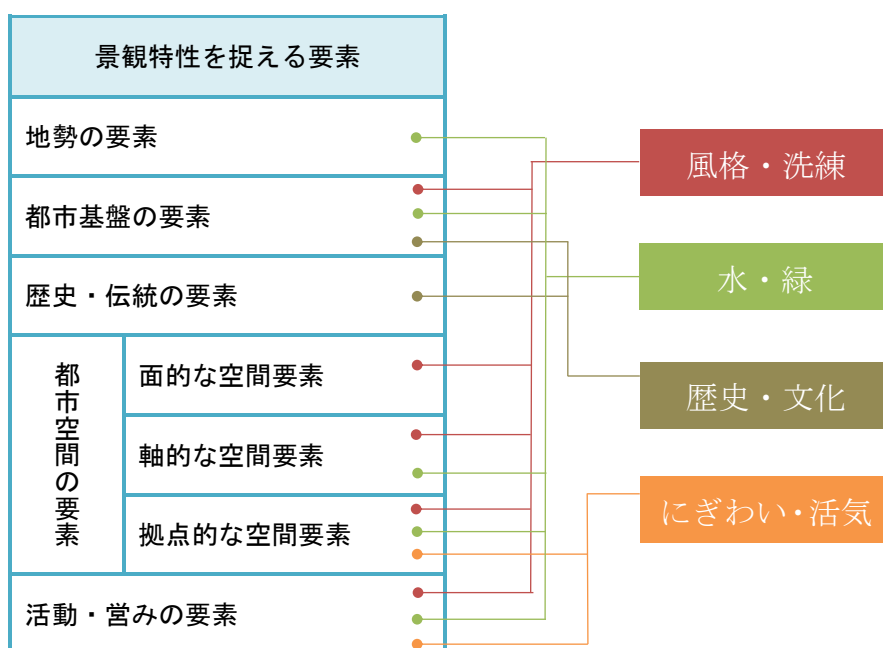
③ 歴史・文化

- ・歴史的な資源や大阪ならではの文化資源がある上町台地、船場等のエリアや、伝統的な建物が残る旧街道沿いのまちなみでは、地域の歴史や文化を感じさせる深みのある景観が特徴となっています。

④ にぎわい・活気

- ・道頓堀、新世界等の繁華街や大阪城公園、USJ等の観光地の他、市内各所の地域に根差した商店街などでは多くの人が集まり、にぎわいと活気のある景観が特徴となっています。

景観を捉える要素と特徴的な景観を表す4つのテーマの関係



（２）特徴的な景観を有する主要なエリア

これまでに美観地区、建築美観誘導制度や景観形成地域などの景観施策を展開してきたエリアの他、風致地区や都市再生緊急整備地域における都市計画により誘導を行っているエリア、さらに景観協定や地区計画などを活用して地域主導の景観まちづくりが進められてきたエリアなどにおいて、特徴的な景観が形成されています。その他、大阪を代表する観光地、繁華街や市民アンケートにより明らかとなった市民が好きな風景を有するエリアについても特徴的な景観を有しています。

【特徴的な景観を有するエリアの分布（例）】

これらの特徴的な景観を有するエリアは、「風格・洗練」、「にぎわい・活気」をテーマとするものは都心部に、「水・緑」、「歴史・文化」をテーマとするものは上町台地に多くが集積するものの、特に「歴史・文化」、「水・緑」、「にぎわい・活気」は市域全域の広い範囲に分布しており、それぞれのエリアにおいて様々なテーマが垣間見える多様な表情をもつ景観が「大阪らしい景観」であると言えます。

● 風格・洗練

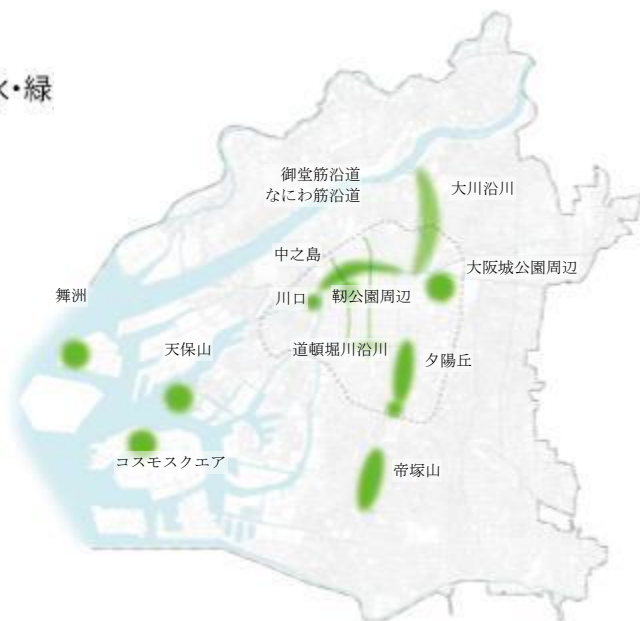


御堂筋沿道



中之島

● 水・緑

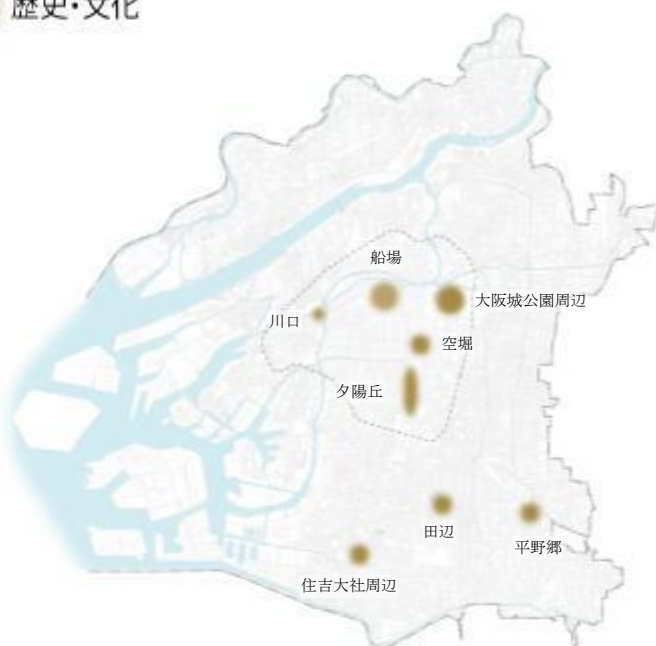


大川沿川



夕陽丘

歴史・文化



船場



住吉大社周辺

にぎわい・活気



道頓堀川沿川

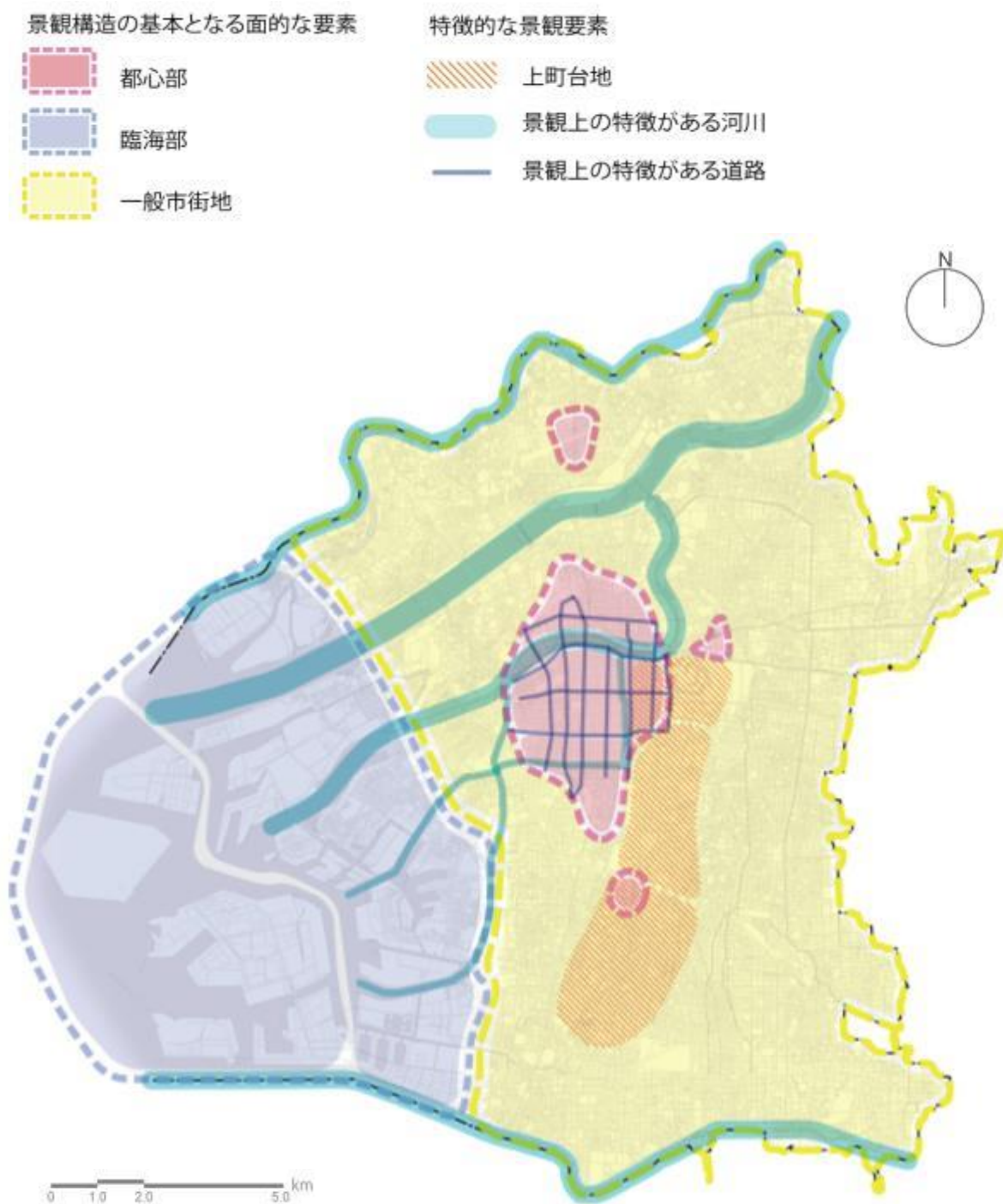


ユニバーサルシティ駅前

3 景観構造の特性

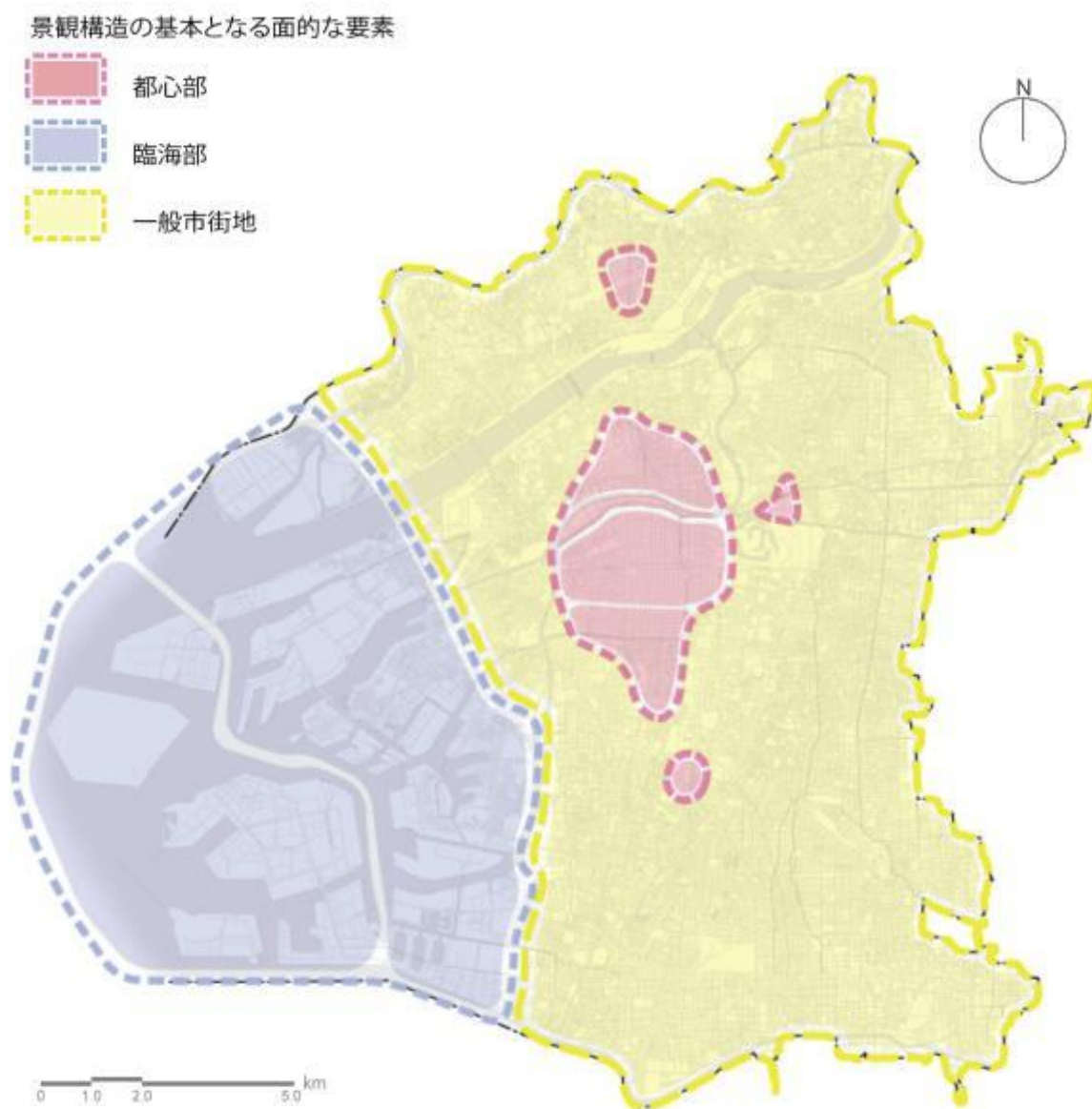
1 節で整理した景観特性を捉える各要素をもとに、市街地空間の大きな特性から見ると、本市の景観構造は「基本となる面的な要素」及び台地、河川や道路などの「特徴的な景観要素」から特性を捉えることができます。

○景観構造の特性図



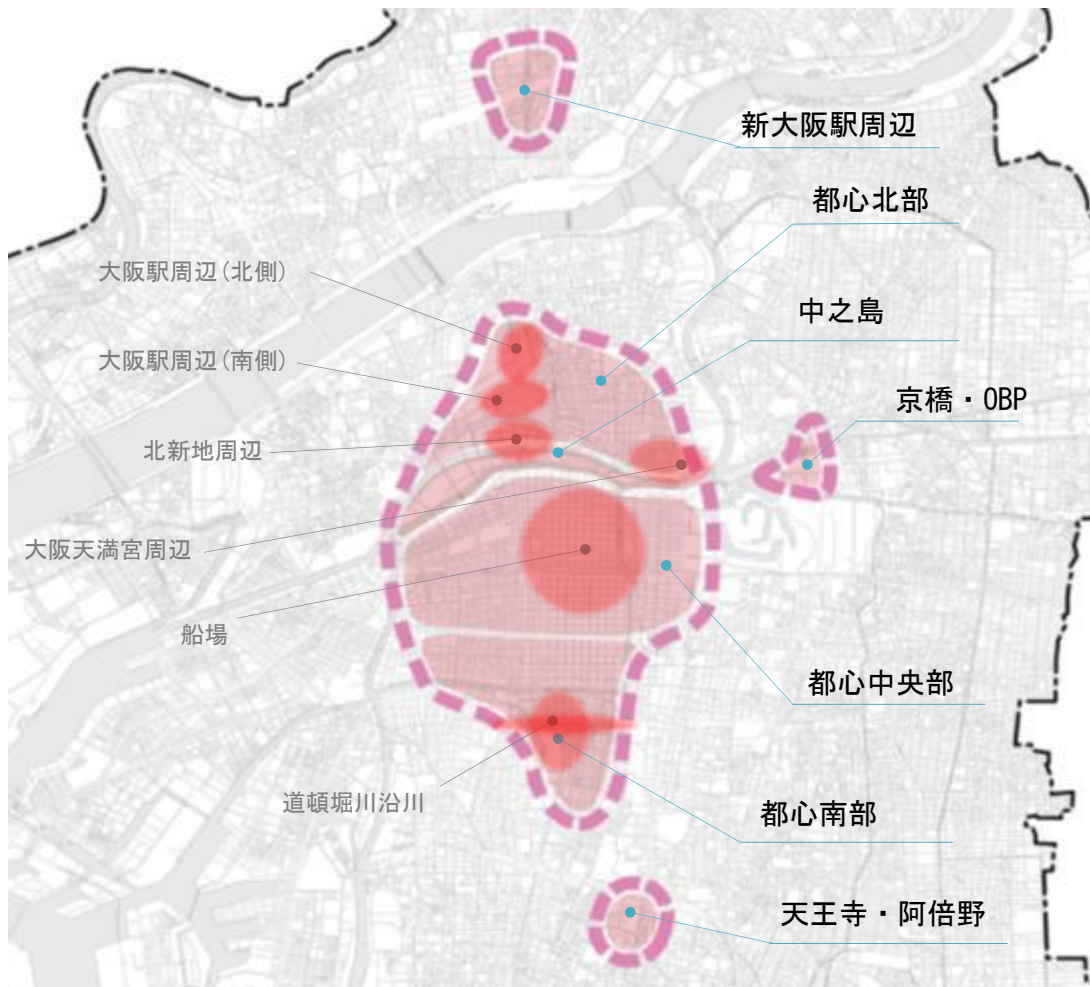
(1) 基本となる面的な要素

主に地勢の要素、都市基盤の要素、歴史伝統の要素、面的な空間要素などから、景観の基本的な特性が面的に広がる市街地空間のまとまりを抽出し、特に土地利用や建物用途などから市域を区分すると「都心部」「臨海部」の2つのまとまりが抽出され、その他、旧街道沿いのまちなみや商店街界限など個性的な景観拠点が点在する「一般市街地」も含め、市域全域を大きく3つに区分することができます。



①都心部

- ・都心部の業務・商業系や高層住宅の土地利用を中心とする市街地では、比較的規模の大きな建物が高密度に立地する景観が形成されています。
- ・都心部の中でも、新大阪駅周辺、都心北部、中之島、都心中央部、都心南部、天王寺・阿倍野、京橋・大阪ビジネスパークでは、それぞれのまちなみの特徴があります。



【新大阪駅周辺】

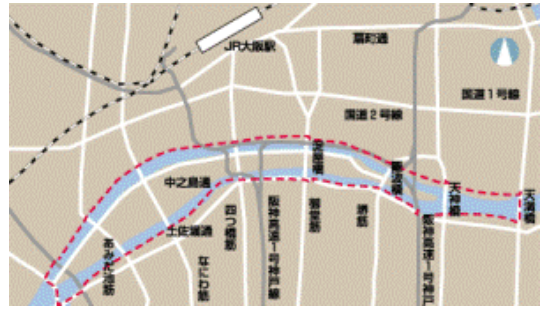
- ・新大阪駅を中心とするターミナル空間を核とした景観が形成されています。
- ・新大阪駅周辺は、都心部とのアクセス向上や土地利用の増進を目的とした区画整理事業によりつくられたエリアであり、比較的敷地面積も大きく、ボリュームのある建築物によりまちなみが構成されています。
- ・高い交通利便を強みとし、業務系の用途が多数分布する景観が形成されています。

【都心北部】

- ・大阪駅を中心とする洗練されたエリアであり、大規模な面的な整備が進められてきた駅周辺では、スーパーブロックの業務・商業系を主とする大規模な建築物から成る景観が形成されています。
- ・大阪駅周辺（北側）は近年、開発が進められており、グランフロント大阪を中心に美しく先進性が感じられるまちなみが形成されています。
- ・大阪天満宮周辺は、天満宮と参道を中心に伝統的な建築物が残っており、歴史・文化が感じられるまちなみが形成されています。
- ・一方、北新地周辺では、キタの繁華街が広がっており、比較的、小規模な商業系用途の建築物が集積する限界景観が形成されています。

【中之島】

- ・ 風格のある川筋の景観が形成されるよう、周辺とのバランスに配慮して連続性やリズム感のあるまちなみが形成されています。
- ・ 南北を河川に囲まれた独特の地形を有しており、都心部にも関わらず空間的なゆとりがあるまちなみが形成されています。
- ・ かつて諸国大名の米蔵があった名残もあり、その敷地は比較的大きく、大規模な建築物が多数立地しています。
- ・ 特に中之島東部（御堂筋以東）は、豊かな水と緑、大阪の都市の発展を今に伝える歴史的な建築物や構造物、文化財が多数あり、水の都大阪の歴史的空間を形づくっており、公共・公益用途が卓越しています。
- ・ また、中之島西部（御堂筋以西）は、広い敷地に大阪の国際・文化・情報化などの新しい都市機能を持った中高層の建築物の整備に伴い、新しい都市景観の形成が進んでおり、業務系用途が卓越しています。



【中之島景観形成地域】（※1）

（※1）旧都市景観条例第6条の規定により景観形成方針を定めた区域

【中之島景観形成地域の区域】旧淀川及び土佐堀川の河川区域と天満橋、船津橋、端建蔵橋、昭和橋で囲われた区域及びその区域に接する敷地。接する敷地が道路の場合は、その道路に接する敷地。（約104ha）

【都心中央部】

- ・ 船場を中心とする都心中央部は、大阪城築城と同時にいち早く市街地が形成され、近世のまちづくりを基礎に、格子状の市街地構造を土台に、特徴あるまちなみが形成されてきました。
- ・ エリア内には多様な用途、規模の建築物や、長いまちの発展の歴史の中で、まちの成り立ちを感じさせる町家建築や近代建築といった歴史的景観資源が随所に見られます。
- ・ また、高密度な土地利用が行われる中で、まちなみの形成、快適性の向上やにぎわい創出に向け、各種のまちづくり施策が展開されてきました。
- ・ 風格のある「大通り（広幅員道路）」やまとまりの感じられる「地区道路（中小幅員道路）」の特性をいかして、沿道のまちなみが整えられ、船場をはじめ市民に親しまれている都心の魅力を高めることにより、ゆとり・うるおい・にぎわいのある都市景観が形成されています。



【都心中央部景観形成地域】（※2）

（※2）旧都市景観条例第6条の規定により景観形成方針を定めた区域

【都心中央部景観形成地域の区域】大阪府中央区及び西区における土佐堀通、谷町筋、長堀通、新なにわ筋に囲まれた地域及びその区域に接する敷地（約480ha）

【都心南部】

- ・道頓堀周辺では、道頓堀川や千日前を中心とした芝居小屋を起源とする繁華街や商店街など多様な界隈が連担し、他のエリアに比べ、商業系用途が卓越しています。
- ・道頓堀川沿川では、とんぼりリバーウォークや河川に面して個性的なファサードの建物によりにぎわいのある景観が形成されています。
- ・界隈ごとに特徴のある多様なエリアが存在し、キタと並んで大阪を代表する繁華街としてにぎわいのあるまちなみが形成されています。
- ・湊町や難波駅周辺では、面的な開発が行われ、大規模な建築物から成る景観が形成されています。

【天王寺・阿倍野】

- ・ターミナル駅やランドマークであるあべのハルカスを核とし、主に商業系用途からなる景観が卓越するエリアです。
- ・大規模な商業施設や超高層ビル、入り組んだ界隈など多様な景観が連担する特徴を有しています。
- ・天王寺公園や親しみのある界隈、さらには更新を続ける大規模な建築物などが景観の要素となっています。

【京橋・大阪ビジネスパーク】

- ・大阪ビジネスパークでは、クリスタルタワーをはじめとする高層建築群による洗練された印象のまちなみが形成されています。また、低層部や街路においては、大阪城公園の緑を延伸したかのようなうおいあるまちなみが見られます。
- ・一方、京橋駅前においては、人々の活動が表出した活気あるまちなみが形成されています。

②臨海部

- ・工場や物流系の土地利用を中心とし、敷地面積及び建物のスケールが他の市街地と比して大きい街地で、海岸線はエッジとして見る（視点場）・見られる（視対象）の関係を生んでいます。
- ・橋梁等の構造物からなる大スケールのパノラマ景観や、大規模な工場や物流倉庫からなる産業景観が特徴となっています。
- ・比較的新しい時代に埋め立てられた新臨海部とそれ以前に形成された在来臨海部では、それぞれに景観の特徴があります。

【在来臨海部】

- ・明治中期から埋め立てられ、新臨海部より内陸に位置するエリアです。屈指の貿易港として発展してきた大阪湾ですが、本エリアにおいては工業系用途からの土地利用転換により、業務・商業・観光・住宅など、多様な土地利用が分布しています。

- ・沿岸部においては、比較的ボリュームの大きい建築物や橋梁等の建造物が多く見られますが、内陸側では、小規模な住宅などが卓越しています。
- ・築港・天保山においては、港町らしい水辺の魅力と観光地としてのにぎやかさが共存するまちなみが形成されています。また、周辺に海運産業を支えた近代建築など、港の歴史・文化が感じられる資産が残されています。
- ・大正内港では、閉鎖的な静水域に面して港湾関連機能と居住機能等が共存し、陸地と水面とのつながりが比較的密接な落ち着いた雰囲気の様子が形成されています。

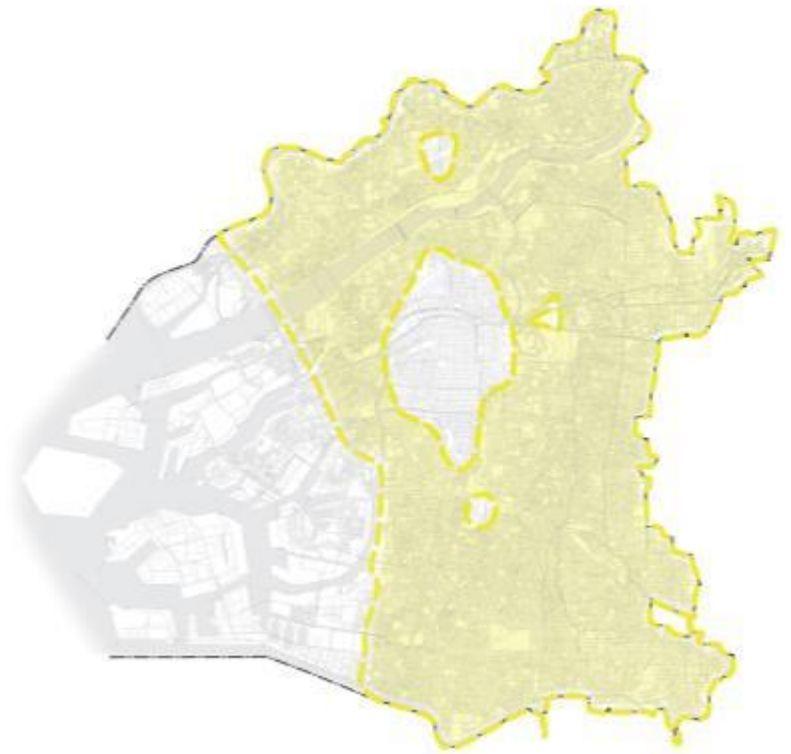
【新臨海部】

- ・昭和中期から埋め立てられ、沿岸部は主に倉庫や工業系用途が発達していますが、コスモスクエアなどの高度利用が図られた集客拠点、舞洲などのレクリエーション拠点や、ニュータウンなど、地区毎に性格の異なる機能集積が見られます。
- ・敷地に余裕があり、大規模な橋梁等の構造物や建築物が多く、対岸からはランドマークとして眺望されます。
- ・コスモスクエア周辺では、大阪の海の玄関口として、個性的な建築物と遊歩道による大スケールでかつゆとりの感じられる景観が形成されています。
- ・南港ポートタウンでは、街路樹や緑地などの多くの緑に囲まれたゆとりとうるおいを感じる住宅地の景観が形成され、港湾関連施設が立地する海際の景観とは異質の空間となっています。



③一般市街地

- ・一般市街地では、古代から中世の農村や漁村を起源とする旧集落や旧街道沿いにおいて町屋などの歴史的資源が点在するほか、市民の活気が感じられる商店街などの限界景観や、親しみの感じられる居住地景観など、地域ごとに形成されてきた多様で個性的なまちなみが広い範囲に点在していることが、共通する景観特性となっています。
- ・旧街道筋沿いに優れたまちなみや歴史的景観資源が残されており、例えば、平野郷周辺では、自治都市として栄えた旧環濠内に伝統的な建築物が残っており、歴史・文化を感じられるまちなみが形成されています。



(参考) 旧集落・旧街道筋の分布



【出典：大阪都市地図（明治初期・昭和前期）】